

# 郷土資料の 散歩道

図書館郷土資料室

☎21-6111内線6201

よね  
ざわ  
ぜん  
ぼん  
米  
沢  
善  
本

藩校興譲館伝来の

全国的にも貴重な書籍群

今回は市立米沢図書館が所蔵する、大変貴重な書籍群「米沢善本」を紹介します。

図書館が開館したのは九七年前の明治四十二年、財団法人「米沢図書館」としてスタートしました（昭和十三年に米沢市に移管※）。その際、藩校興譲館に伝来した書籍類が寄贈されまし



▲直江版「文選」

三冊も有名な本です。慶長十二年（一六〇七）、直江が京都の寺に依頼して出版したもので、日本初の銅活字印刷といわれています。直江の書籍に対する愛着心は先の例でうかがえますが、自己満足に止まらず、出版して広く文化の発展に寄与しようとする心が感じられます。

※市へ移管の際、著名な「米沢図書館」の名を尊重し、名称を「市立米沢図書館」と決めました。米沢市立図書館と称さないのは、現在もその伝統を受け継いでいるからです。

たが、その中には「珍書」と呼ばれる貴重書籍が数多く含まれており、全国的にも有名でした。

昭和三十三年にその本格的な調査研究が行なわれ、『米沢善本の研究と解題』にまとめられました。特に貴重な書籍として解題（解説）が付けられた和書六二点・漢籍一四六点を一括し、「米沢善本」の名で整理しました。昭和六十年には市の文化財に指定されています。

直江が蒐集・出版した貴重書

「米沢善本」の中には直江兼続が蒐集した書籍も多く含まれています。

直江は文武兼備の将として有名で、その書籍に対する執着心は目をみはるものがありました。

善本の中の『古文真宝後集抄』の序文には、京都妙心寺の名僧が、寺に伝わる書物を何日もかけ熱心に書写した直江を、「節義の高い人物」と賞賛する文章が付いています。

また、主君上杉景勝は豊臣秀吉の命で朝鮮出兵に従いますが、その時直江は、戦乱に失われてゆく書物を惜しみ、第一に収集させたと言われています。善本の中には『山谷詩集』等の数種の朝鮮古活字本が含まれ、その伝承を裏付けています。

直江版と称される『文選』六〇巻・



▶古點平家物語

珍しい「平家物語」も所蔵

善本の中には、他にも貴重な書籍が数多くあります。例えば「古點平家物語」は室町時代の写本で、平仮名交じりで書かれた珍しい本です。筑摩書房の「平家物語」等、多くの本の底本となっています。また、「ねずみの嫁取り」等の説話を集めた『沙石集』も、古い形態を残した貴重な本で、底本や比較本としてよく利用されています。

こうした貴重な書籍を閲覧するため、今でも全国各地の国文学・漢文学・書誌学の研究者が来館しています。そして閲覧後には、「さすが米沢善本、これからも大切にしてください」と等の言葉をいただいております。